

九州工業大学における教育職員の評価について  
24年度（2012年度）実施分

— 平成25年2月 —  
九州工業大学



## 目 次

I	はじめに	P1
II	教育職員評価の実施方法の概要	P2
III	評価結果について	P3
	1. 教育職員評価の申請状況	
	2. 5段階の総合評価：全体（302人）の割合と職階分布	
	3. 5段階の総合評価：職階別（人数・割合）	
	4. 評点分布	
	5. 職階別評価平均点	
	6. 前回実施との比較	
	1) 総合評価：職階別比較	
	2) 重み：職階別比較	
	3) 職階別総合評価平均点	

## I はじめに

平成 24 年度に実施した教育職員評価の結果をとりまとめましたので、評価方法と併せて公表いたします。

本学では、3年に一度教育職員評価を実施し、評価結果が十分でなかった教育職員に対し指導・助言による改善の支援を、また、優れている教育職員の適切な認知により意欲を高めることを通じて、教育職員全体の水準向上に努めてきました。この水準向上は、本学のステークホルダーである学生とその保護者、教職員、地域社会等の満足度の向上、さらには本学の評価の向上につながるものと考えています。

3回目となる平成 24 年度の教育職員評価において最も重視したことは、教育研究等に努力を傾注してきた教育職員が適正に評価されることです。たとえば、欠落している評価項目を追加し、突出した顕著な業績を適正に評価できるよう評価の仕組みを改善することなどが考えられます。

このような問題意識を持ち、平成 23 年度に、前回の教育職員評価時のアンケート結果を念頭におき、また教育研究の現場とも意見をやり取りし、さらに、戦略会議、教育研究評議会のご意見に加えて経営協議会での学外意見も反映できるよう、大学評価委員会において評価方法の見直しについて慎重に議論を積み重ねてきました。

その結果、各領域での SS、S 評価（70 点、60 点）の導入、研究業績に関し論文数だけでなく第 4 次科学技術基本計画でも重視されている被引用数の導入、3 段階での複数人評価、多様な教育職員を想定した領域毎の重みの下限設定、授業アンケート結果の反映など、いくつかの重要な修正を加えました。このような修正にも拘わらず、50 点未満の総合評価に関しては、これまでの教育職員評価との継続性が概ね保たれていると考えています。また、これまでの評価では、たとえ顕著な業績があっても多数の評価項目の一つにしか過ぎず、努力を適正に反映した総合評価には必ずしもなっていなかったことから、重み付き和とは異なる新たな評価の仕組みを導入しました。

また、評価結果の活用方法については、従来、「改善を要する」及び「改善の余地がある」と判断した教育職員に対し、「改善計画書」の提出を求めるとともに、部局長等が指導・助言を行ってきました。今回は、これに加え、「適切である」教育職員に対しても必要に応じて部局長等の助言により更なる向上を支援することとしました。また、総合評価が「特に優れている」教育職員については表彰を行うとともに、本学の公式ホームページ上でも公表することとしました。

さらに、情報システムとしては、評価入力作業の軽減を図るため、平成 23 年度から運用を開始した「大学評価用データベースシステム」と連携する新たな「教育職員評価用システム」を導入しました。

教育職員評価を単なる評価に終わらせず、教育職員が自らを省みて今後の改善を思慮するためのポートフォリオとして活用できれば、実質を伴った P D C A サイクルが実現し、教育研究等の改善効果が大きくなるものと確信しています。今後、このような目的にも活用していくことを念頭に置きつつ、教育職員評価の改善に努めて参りたいと考えています。

大学評価委員会委員長

石川 眞 澄

## II 教育職員評価の実施方法の概要

### 1. 教育職員評価の目的

教育職員の教育研究活動等の一層の活性化を図り、質的向上に努めることを目的とする。  
全教育職員をランク付けすることが目的ではない。

### 2. 評価実施年度（平成 18 年度より 3 年ごとに実施）

- 第 1 回 平成 18 年度
- 第 2 回 平成 21 年度
- 第 3 回 平成 24 年度

### 3. 評価対象及び期間について（教育・研究・社会貢献・管理運営）

教育、社会貢献、管理運営：過去 3 年度分（平成 21 年度～平成 23 年度）  
研究：過去 5 年度分（平成 19 年度～平成 23 年度）

### 4. 評価実施方法

「大学評価用 DB システム」のデータを活用するとともに、評価申請者、評価実施組織の担当者双方の評価関係作業の効率化を図る観点から、「【新】教育職員評価用システム」により、教育職員評価を実施。

### 5. 評価手順

- ①各教育職員は、大学評価用 DB システム及び教育職員評価シート（Excel ファイルでダウンロードとアップロードが可能。）にデータを入力し、評価申請。
- ②評価実施組織の担当者（各部局等内の複数人）は、4 つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）ごとに、7 段階の領域別評価を実施し、評価者コメントを記載。
- ③SS、S 評価（70 点、60 点）に該当すると各評価実施組織で判断された評価項目については、全学的視点から、学長、理事、部局等の長が協議。
- ④部局の長及び各センター長、又は学長及び理事は、自己申告及び評価実施組織の担当者が行った領域別評価、SS、S 評価についての全学的協議結果を勘案し、  
「特に優れている」  
「優れている」  
「適切である」  
「改善の余地がある」  
「改善を要する」  
の 5 段階評価を決定。併せて申請内容に対するコメントを記載。
- ⑤評価結果を各教育職員に内示。評価結果に対し、異議がある場合は、意見の申し立てが可能。
- ⑥評価実施組織の担当者は、意見の申し立てについて検討を行った上で、学長に報告後、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知。
- ⑦「改善の余地がある」又は「改善を要する」という評価を受けた教育職員は、改善計画書を提出。「適切である」と判断した教育職員についても必要に応じて部局長等の助言により更なる向上を支援。

### 6. 評価結果の活用

- ①「改善の余地がある」又は「改善を要する」と判断した教育職員に対しては改善計画書の提出を求めるとともに、必要に応じて改善措置等のフォローを行う。
  - ②部局単位での業績等評価配分経費に反映する。
  - ③昇給等（ボーナス含む）の選考の判断材料として部局長が推薦の際に活用する。
- ※「適切である」と判断した教育職員についても必要に応じて部局長等の助言により更なる向上を支援する。  
また、内部昇任時の参考資料とすることや表彰を行うこと等も検討。

### Ⅲ 評価結果について

#### 1. 教育職員評価の申請状況

(単位:名)

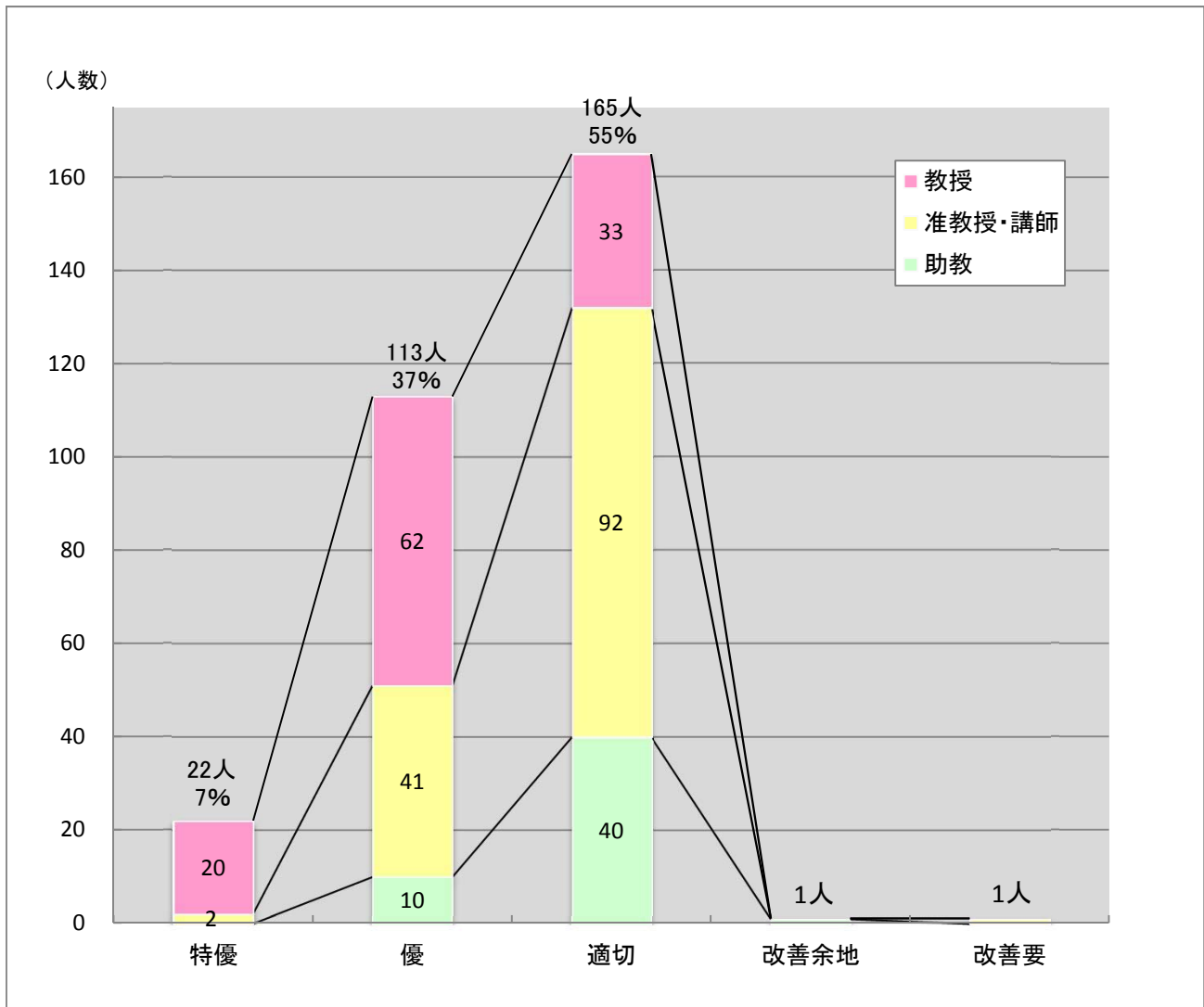
部局	研究系・専攻名	2012/4/1在職者				非対象者		評価対象者	免除申請者	評価希望者	評価対象者(確定)	未申請者	申請者
		教授	准教授・講師	助教	計	在職3年未満	任期付き						
大学院工学研究院	機械知能工学研究系	16	10	6	32	3	0	29	0	1	30		
	建設社会学研究系	7	8	1	16	3	0	13	0	0	13		
	電気電子工学研究系	12	9	11	32	3	0	29	1	0	28		
	物質工学研究系	9	12	11	32	2	0	30	1	1	30		
	基礎科学研究系	8	9	0	17	3	0	14	0	1	15		
	人間科学系	5	9	0	14	2	0	12	1	0	11		
	先端機能システム工学研究系	5	6	1	12	2	0	10	0	0	10		
小計		62	63	30	155	18	0	137	3	3	137	1	136
大学院情報工学研究院	知能情報工学研究系	8	8	5	21	1	0	20	0	0	20		
	電子情報工学研究系	6	8	4	18	0	0	18	0	0	18		
	システム創成情報工学研究系	7	10	4	21	3	0	18	0	2	20		
	機械情報工学研究系	6	11	5	22	3	1	18	0	2	20		
	生命情報工学研究系	6	10	5	21	3	0	18	0	1	19		
	人間科学系	5	8	0	13	1	0	12	0	0	12		
	情報創成工学研究系	4	5	1	10	1	0	9	1	0	8		
小計		42	60	24	126	12	1	113	1	5	117	0	117
大学院生命体工学研究科	生体機能専攻	9	10	2	21	1	2	18	0	0	18		
	脳情報専攻	9	8	2	19	1	2	16	0	0	16		
小計		18	18	4	40	2	4	34	0	0	34	0	34
学内共同教育研究施設	保健センター	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1		
	情報科学センター	0	2	4	6	1	0	5	0	0	5		
	マイクロ化総合技術センター	2	2	2	6	1	0	5	0	0	5		
	産学連携推進センター	4	1	0	5	0	5	0	0	0	0		
	機器分析センター	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1		
	学習教育センター	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1		
	宇宙環境技術ラボラトリー	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0		
	ネットワークデザイン研究センター	2	1	0	3	0	3	0	0	0	0		
	先端金型センター	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1		
	エコタウン実証研究センター	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0		
	先端エコフィッティング技術研究開発センター	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0		
	理数教育支援センター	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0		
	若手研究者フロンティア研究アカデミー	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0		
	大学評価室	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0		
安全衛生推進室	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0			
小計		10	13	9	32	2	18	12	0	2	14	0	14
合計		132	154	67	353	34	23	296	4	10	302	1	301

※1 「教育職員在籍者」は、平成24年4月1日現在の在職者である。

※2 職名は平成24年4月1日現在。

※3 「評価対象外の在職3年未満」とは、平成24年4月1日現在において、本学に採用されてから3年未満の教育職員

## 2. 5段階の総合評価:全体(302人)の割合と職階分布



### 3. 5段階の総合評価:職階別(人数・割合)

#### <総合評価>

特に優れている(特優):いずれか1つの領域で70点、又は複数領域で60点

優れている(優):いずれか1つの領域で60点、又は50点

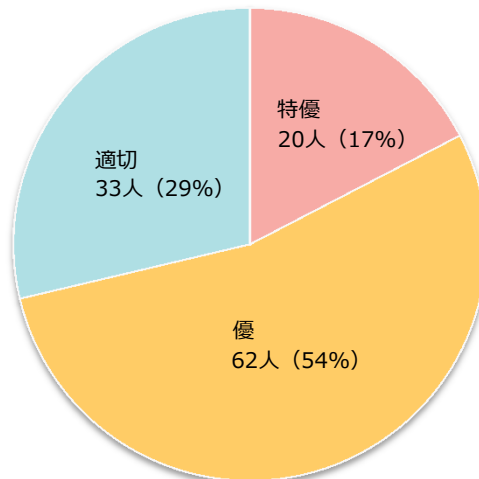
適切(適切である):30点以上50点未満

改善余地(改善の余地がある):20点以上30点未満

改善要(改善を要する):20点未満

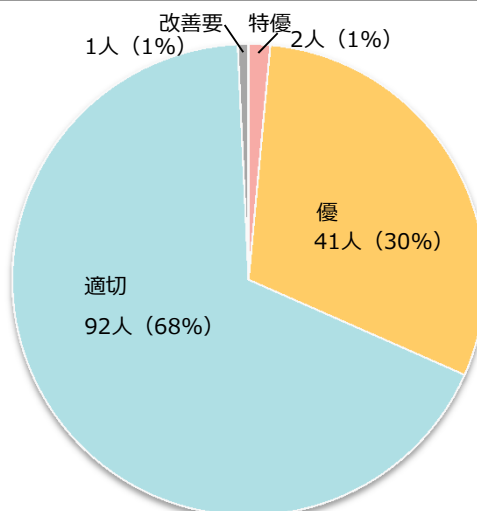
#### 教授 (115人)

- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要



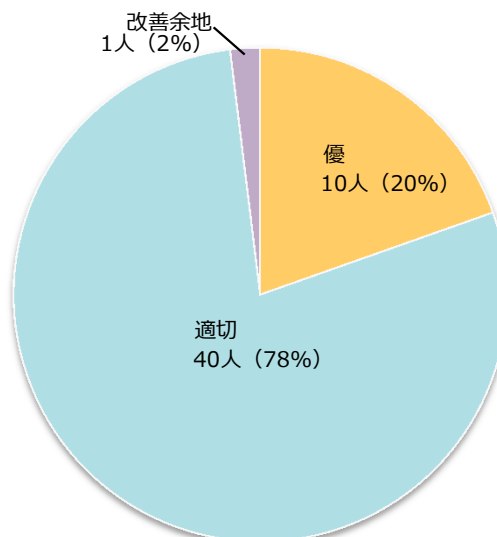
#### 准教授・講師 (136人)

- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要



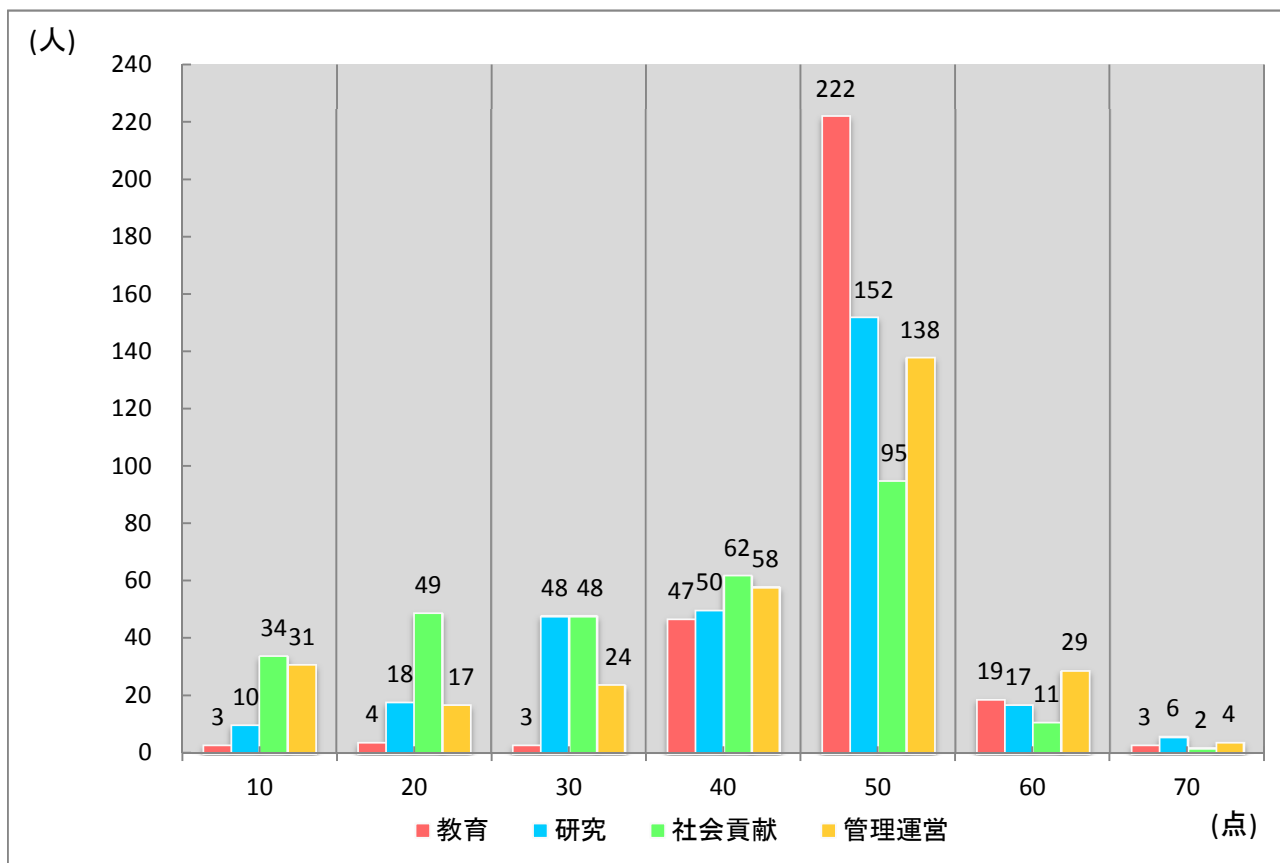
#### 助教 (51人)

- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要

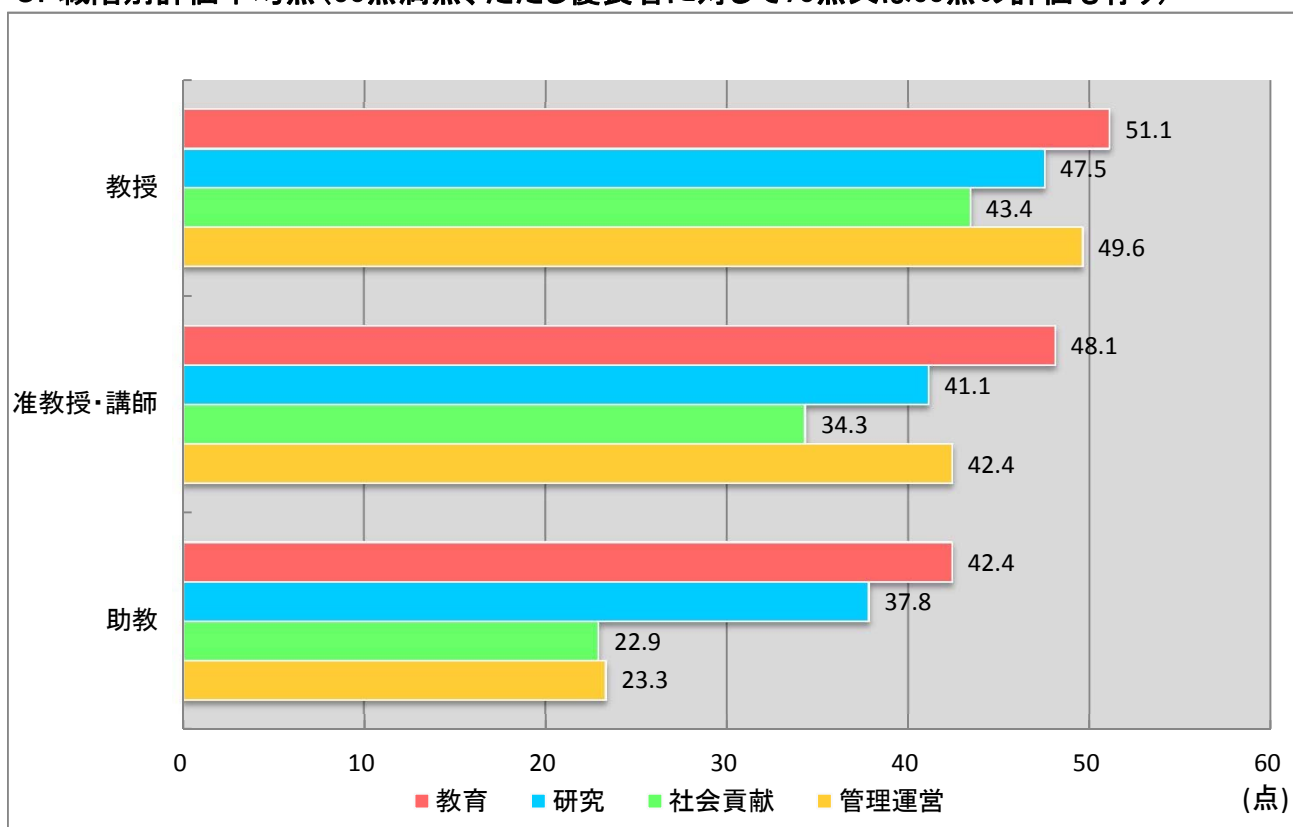




#### 4. 評点分布

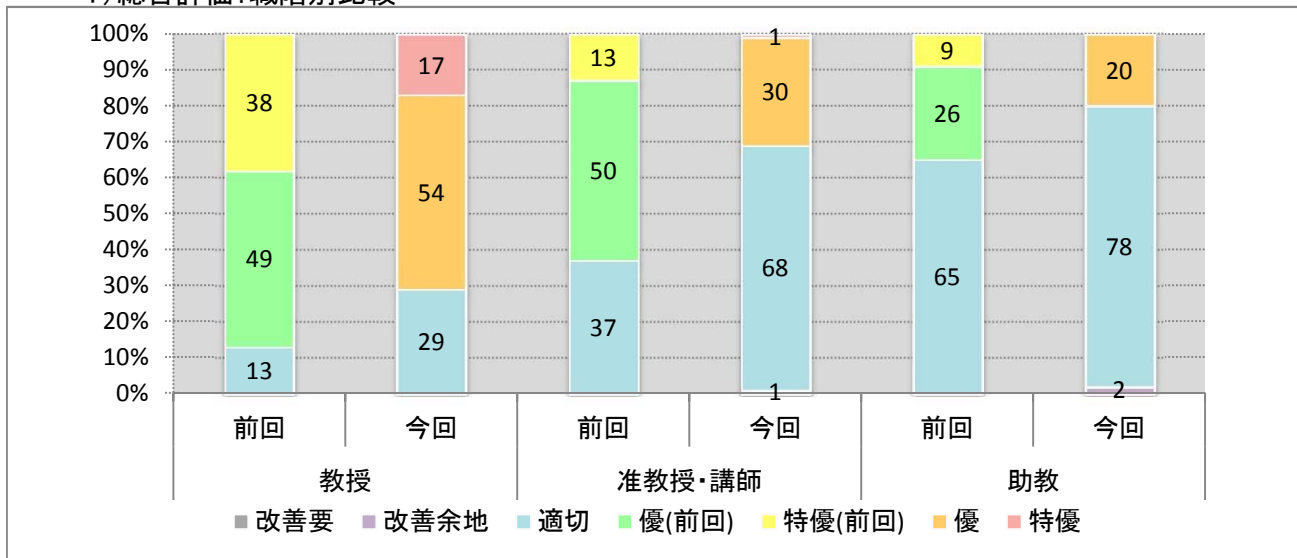


#### 5. 職階別評価平均点 (50点満点、ただし優良者に対して70点又は60点の評価も有り)



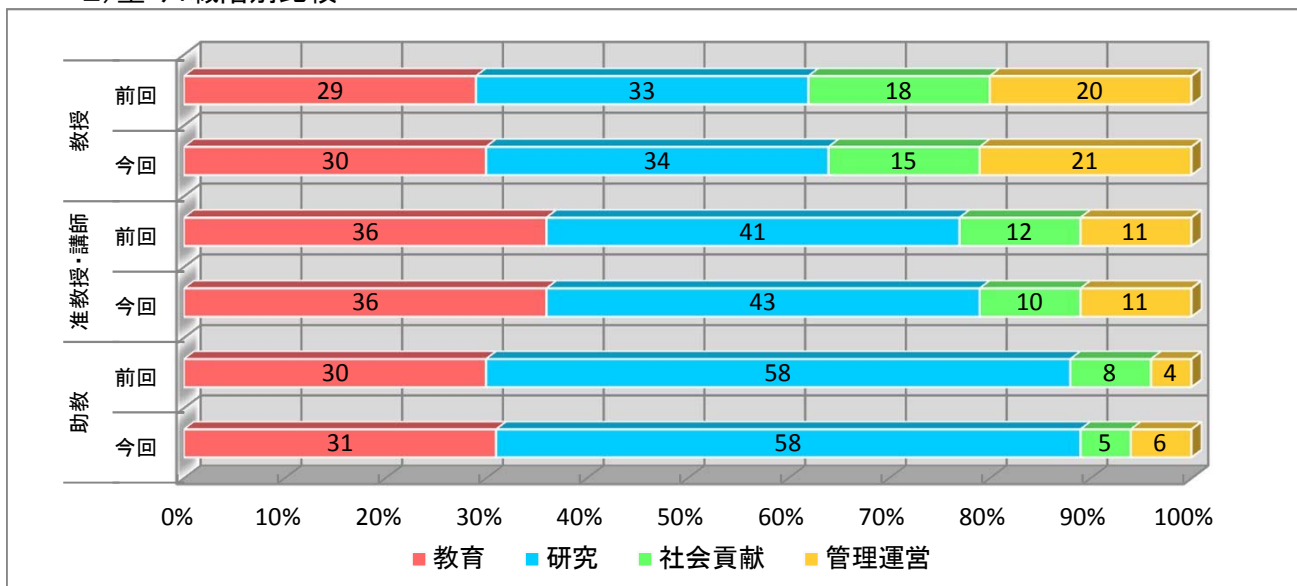
## 6. 前回実施との比較

### 1) 総合評価: 職階別比較



前回	特優	50点	今回	特優	1領域で70点又は複数領域で60点
	優	45点以上50点未満		優	1領域で60点又は50点
	適切	30点以上45点未満		適切	30点以上50点未満
	改善余地	20点以上30点未満		改善余地	20点以上30点未満
	要改善	20点未満		要改善	20点未満

### 2) 重み: 職階別比較



### 3) 職階別総合評価平均点

